

# 若き 附中

熊本大学教育学部  
附属中学校  
学校だより

令和2年12月17日

第13号

〈文責：高木〉

最後に司会の児玉

さん(三年二組)が

「人権とは何か」という問いを発してくれました。その答は一つではないとも話としてくれました。

人権は、目に見えるものではないかもしれませんが、すべての人が持っているものです。しかし、学に考えいなければ、守ることができないものでもあるのです。

## 今年一年を振り返って

三年四組 高永 瑠璃

今年一年を振り返って私は、今まで一番と言った良いほど大変な一年だったと思う。なぜなら、コロナウイルスの影響で臨時休校に对应しなければならなかったからだ。

休校での授業、体育大会の延期、二教室に分かれてのテスト、附中文化の日の中止など予想もなかったことが次々と

## 今年を振り返って

一年三組 井本 陽仁

起きた。今まで当たり前でできていたことができないという現状の中で「当たり前」のありがたみを感じた。それと共に、簡単に崩れていく日常に驚いた。感染拡大が少し収まり対面での授業が再会されてからも、机の配置の変更、換気など、いつもとは違うことが決山ありを感じることが多かった。

しかし、そんな中でも思い影響だけではないのだではないかと思う。今回のことで個人的には臨機応変に対応する力が付いたと考える。また、昨年と違う形式で行われた行事等に対し協力して乗り越えてきたことにより、クラス内の絆も深まったと感じる。このような状況下でも思い面ばかりでなく良い面にも目を向けていきたい。そして、今、ウイルスと戦っている医療従事者の方々には感謝の気持ちで手に持つ、していきたい。



僕の今年の反省点は、早く課題をせずに課題に追われてしまった点です。中学生になって、学校から課題が多く出されるようになりました。また、僕は家が学校から遠く登下校に約一時間かかります。そのため、課題をする時間が短くなってしまいました。それにもかかわらず僕は、やらなければならぬ事があったても、やり始めるのが遅くなってしまいました。まだ時間があると思ってしまうのを先延ばしにしてしまっています。また、僕は要領が悪く、課題に時間をかけすぎてしまいます。なんでも完璧にしようとしてしまい、時間がかかり、その結果集中力が切れてしまいます。そのため、だから課題を止めてしまうという悪循環に陥ってしまっています。このようなことが原因で宿題や課題などに追われ、自分のやりたいことが出来なくなってしまうかもしれません。この失敗を生かして、来年は、やるべきことをもっと早めに取り掛かり計画的に要領よくできるようにしたいと思います。

12月16日に、放送による人権集会を行いました。各学年の代表が、これまで行ってきた人権学習をふまえた学びの成果を発表しました。

一年生からは、みんなの使い方と暮らすことと生きかけに、学校に来て楽しいと思える雰囲気を作ることが大切で、そのためにも、個性を認めること、まわりの人に流されないことが大切であるという発表がありました。



二年生からは、「いい仕事とは何か？」と考える中だ、とてもそんな判断はできないとい

うこと、自分の価値観が絶対ではないと考えることが大切なこと、自分の人権だけでなく他の人の人権を守ることが幸せに生きることにつながるといふ発表がありました。

三年生からは、私達が気づかない所に差別が潜んでいて、高校に對する差別に對して、具体的な例を示してくれました。その中で偏見に流されたいこと、自分の夢や理想をしっかり持つこと、成績や進路する学校だけではないということを発表してくれました。

や理想をしっかりと持つこと、成績や進路する学校だけではなく、その人の価値が決まるものではないということを発表してくれました。

※新聞を報課(22杉谷課長)が発行した附中新聞第7号まで、本校生徒の割合がサニタさんかいると信じているというアンケート結果が報じられました。2年前の調査と比較して、4%程、信じている人の割合が減っています。保護者の皆様、どういふことだそうです。